

卒業生アンケート（研修医）結果報告書

2022年12月5日

医学部 I R 室

1. はじめに

本学医学部では、2016年に、学生が卒業時に修得すべき主要な能力を5つのコンピテンス（プロフェッショナリズム、コミュニケーション、医学知識と科学的探究心、診療技能、地域社会へ貢献）として設定しており、各コンピテンスに対するコンピテンシー47項目を設定している。

今回、愛知医科大学卒業生（初期研修医1年目、2年目）および愛知医科大学卒業生を受け入れている初期研修先（研修病院）を対象として、本学のコンピテンス・コンピテンシーに関する卒業生の自己評価および本学卒業生を受け入れている研修先評価をアンケート調査した。

2. 調査概要

2-1. 調査項目

1) 初期研修医に対するアンケート

本学の47項目のコンピテンシーを「十分に身についた」、「身についた」、「身につかなかった」、「全く身につかなかった」の4段階にて、アンケート調査時点（2022年9月）での自己評価を行った。また、本学の教育全体に対する満足度を「十分に満足した」、「満足した」、「満足しなかった」、「全く満足しなかった」の4段階にて評価した。

2) 初期研修先に対するアンケート

本学のコンピテンス5領域7項目[プロフェッショナリズム（医師としての価値観・態度・姿勢、生涯学習・自己啓発・自己管理、チーム医療・医療安全）、コミュニケーション、医学知識と科学的探究心、診療技能、地域社会への貢献]に関して、「十分に身についている」、「身についている」、「身につけていない」、「全く身につけていない」の4段階にて評価した。さらに、大学教育で強化してほしい点や改善してほしい点、本学卒業生の良い点・悪い点、本学に期待することや要望事項等について、コメントを求めた。

2-2. 調査対象

1) 初期研修医に対するアンケート

2022年度の研修医1年目および2年目を対象とした。

2) 初期研修先に対するアンケート

2022年度に初期研修医（1年目、2年目）を受け入れた94施設を対象とした。

2-3. 調査方法

1) 初期研修医に対するアンケート

2022年9月に愛知医科大学医学部事務部学生課から該当者にメールにて依頼した。初期研修医はWeb (Microsoft Forms) アンケートにて、アンケート回答時点における47のコンピテンシーに関する自己評価を行った。

2) 初期研修先に対するアンケート

2022年9月に初期研修医受け入れ研修先に愛知医科大学医学部事務部学生課から郵送にて依頼し、臨床研修担当部門担当医(代表者)に対して回答を求めた。また、併せて対象となる卒業生のリストも同封した。回答方法はWeb (Microsoft Forms) および郵送とし、Faxでの回答も受け付けた。

2-4. 回答者数と回収率

1) 初期研修医に対するアンケート

研修医203名中、63名から回答を得た(研修医1年目31名、研修医2年目32名)。回収率は31%であった。

2) 初期研修先に対するアンケート

初期研修先94施設中、68施設から回答を得た。回収率は72%であった。

3. 結果

1) 初期研修医に対するアンケート (別紙1)

愛知医科大学の教育全体を振り返っての満足度(A48)は、研修医1年目では「十分に満足した」が29.0%、「満足した」が61.3%、「満足しなかった」が6.5%、「全く満足しなかった」が3.2%であり、研修医2年目では、「十分に満足した」が31.3%、「満足した」が43.8%、「満足しなかった」が25.0%、「全く満足しなかった」が0%であった。

コンピテンシーに対する学生の自己評価「十分に身についた」の割合は、卒業時から研修医1年目さらに研修医2年目にかけて年数を追うごとに低下する傾向にあった。

研修医1年目または研修医2年目において、各コンピテンシスで、「身につかなかった」「全く身につかなかった」の割合が10%以上のコンピテンシーを列挙する。

I: プロフェッショナリズム

<医師としての価値観・態度・姿勢>

3. 自分の利益よりも患者・家族・住民・社会の利益を優先的に考え、その利益を達成するために可能な限り努力できる。

<生涯学習・自己啓発・自己管理>

8. 適切に自己評価をし、能力の向上のために、自己学習を自律的に継続できる。
9. 自らの知識や技能を多職種で共有し、それを後進に伝え、後進を育成できる。
10. 精神面、身体面で自己管理に努めることができる。

<チーム医療>

15. 常に医療の質を改善することを考え、質改善を実践できる。

II: コミュニケーション

19. 患者、家族と情報に基づいた意思決定の共有（インフォームド・シェアード・デシジョン・メイキング）ができる。
21. 様々な ICT (Information and Communication Technology) を適切に選択し、活用できる。

III: 医学の知識と科学的探究心

22. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。
23. 生体の正常な構造や機能、および発生、発達、加齢、死を生命科学的知識により説明できる。
24. 疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を説明できる。
26. 疾患の適切な治療、最新の治療を理解し説明できる。
27. 人の健康行動につながる生物学的・心理学・社会的要因を理解し、健康増進の方法を説明できる。
28. 疾病・障害・健康問題と社会との関係を説明できる。
29. 医学・医療と社会との関連、社会の医療問題を説明できる。
31. 医学、医療における客観的根拠を適切に探索し、EBM を実践できる。

IV: 診療技能

35. 適切な検査を選択し、結果を正しく解釈できる。
36. 時、相手・場所に応じた適切なプレゼンテーションができる。
37. 患者と家族に対し、エビデンスに基づいて、適切に治療法・予後を説明できる。
39. プライマリ・ケア領域の救急対応ができる。
40. 慢性疾患・高齢者・緩和・予防・健康増進・リハビリテーション、介護/ケアの視点から患者ケアの実践ができる。

V: 地域社会への貢献

41. 地域社会における疾病予防、健康の維持・増進のための医師の役割を説明できる。

42. 地域の医療状況，社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できる。
43. 医療計画，地域医療構想について説明できる。
44. 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。
45. 社会保障制度を理解し，地域包括ケアの実践に参加できる。
46. 災害における被災者や，社会的弱者の現状について理解し，医療に関わるボランティア活動に参加できる。
47. 国際社会の健康問題を把握，説明することができ，可能な範囲でその問題に対処できる。

2) 初期研修先に対するアンケート（別紙2）

研修先からの各コンピテンスでは、「身につけていない」、「全く身につけていない」の割合が10%を超えるコンピテンスは「地域社会への貢献」であった。各コメントの一部を以下に示す。

<コンピテンス評価についてのコメント>

- チーム医療を行う上で、コミュニケーションがとても良くできると考えます。
- 科学的探究心に関しては物足りなさを少し感じます。
- 研修を真面目に取り組んでおり、メディカルスタッフからの評価も良い評価が多い。自己学習にさらなる努力が必要。
- 物事に真摯に取り組む姿勢ができていますが、地域医療への関心度は低い。

<卒業生の知識面や技術面などから見て、大学教育で強化・改善してほしい点>

- コミュニケーションや自己管理、レジリエンスなど医学知識以外の教養を身につけてほしい
- 研修する病棟の看護師、メディカルスタッフに挨拶する習慣を強化できるとさらに良いと思います。
手紙を書くことが少なくなっているため、紹介状や返書といったやや長い文章を書く力も身につけておくと良いと思います。
- 今後は医師過剰時代の到来も予想され多くの若手医師が地域医療の場に身を置いて活躍することが考えられます。開業志向の学生が多いとは思われますが、学生時代から地域医療のマインドを高めるような教育をお願いしたいです。
- 受け身になる傾向が見られるため、積極的に発言や質問をする姿勢を教育して頂きたいです。
- 臨床教育は行き届いていると印象を持ちました。病態生理学や薬理的に現象を分析する事は苦手なようです。

<本学卒業生の良い点>

- コミュニケーション能力が高い研修医が多い
- すべてにおいて積極的に取り組んでいます。コメディカルや患者さんに対する態度も良好で問題ありません。
- 基礎学力、患者・コメディカルへの態度、学習意欲、学習方法、全てにおいて十分満足するものでした。
- 真面目で、熱心な方が多い。
- 素直で明るく、研修医同士やメディカルスタッフともよくコミュニケーションが取れ、良好な関係を保っている
- 明るく患者様からも親しみやすい人柄で、また手技などについても積極的に学ぼうという意欲があります。

<本学卒業生の悪い点>

- 自己啓発には努めていますが、あまりガツガツしたところがなく貪欲さに欠ける印象です。
- 症例について自ら問題点を見つけて解決することは学年的にまだ難しいようです。
- 精神的な弱さがあります。卒業後もメンタルの相談体制があるといいですね。
- 退院サマリー、インシデントレポートなどの提出状況が少ない
- ややのんびり。ハングリー精神は少ない。

4. まとめ

今回、卒業生アンケートとして、1)初期研修医に対するアンケート、2)初期研修先に対するアンケートを行った。1)に関しては、本学卒業生の研修医に対して、本学のコンピテンシーの修得度に関する自己評価および本学に医学教育に対する満足度を回答してもらった。2)に関しては、研修先からの本学卒業生の卒業時コンピテンシスの評価および本学卒業生初期研修医に対するコメントおよび本学に対するコメントを求めた。

1) 初期研修医に対するアンケート

卒業時コンピテンシーの習得度に関するアンケートの結果、プロフェッショナルリズムのなかで、特に、生涯学習・自己啓発・自己管理に関する項目が多く、これについては、在学時から卒業時にかけて、講義や実習のなかでその能力を育成する必要があると思われる。

5つのコンピテンシスのうち、「地域社会への貢献」に関するコンピテンシーに関して、「身につかなかった」「全く身につかなかった」の割合が多かった。これらに関しては、6学年次においても低い評価項目が多く、在学中に講義や実習を通して、地域医療に対する関心を高めるような教育を強化する必要があると考えられる。

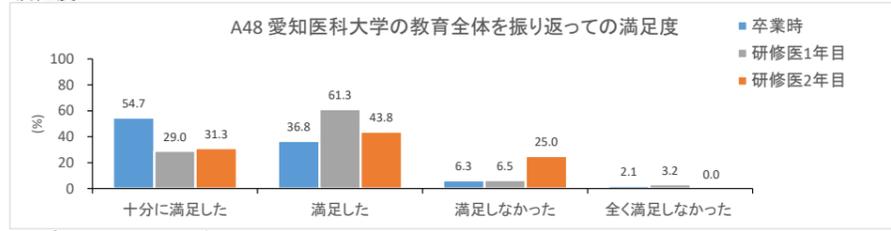
2) 初期研修先に対するアンケート

研修先病院から本学卒業生初期研修医に対するコンピテンス評価や本学卒業生の良い点・悪い点、大学への要望等などのアンケート調査を行った。研修医の自己評価に比べ、研修先の評価は、「地域社会への貢献」以外のコンピテンスに関して、「十分に身につけている」「身につけている」と概ね評価していた。また、コミュニケーション能力が高い、真面目であるとのコメントが多く、おおむね好評価であった。一方、のんびり、ハングリ－精神は少ないなどのコメントもあった。大学で強化してほしい点としては、コミュニケーションや自己管理、レジリエンスなど医学知識以外の教養、積極的姿勢、基本手技、患者診察、地域医療のマインドの醸成などがあげられた。

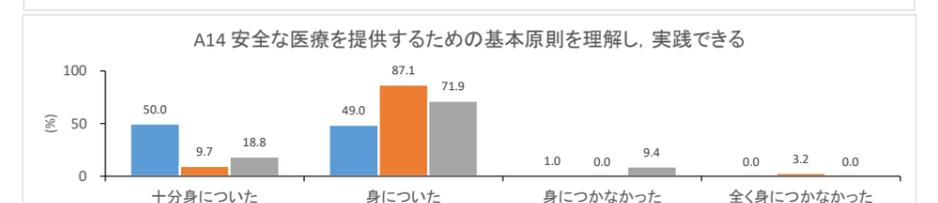
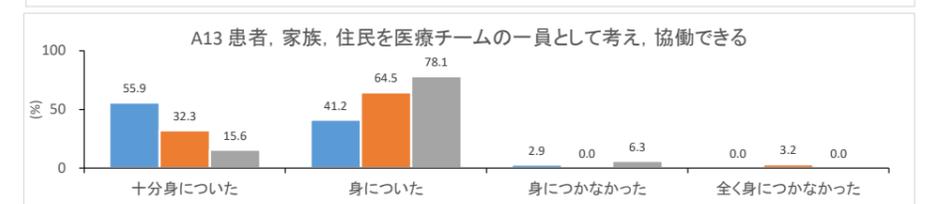
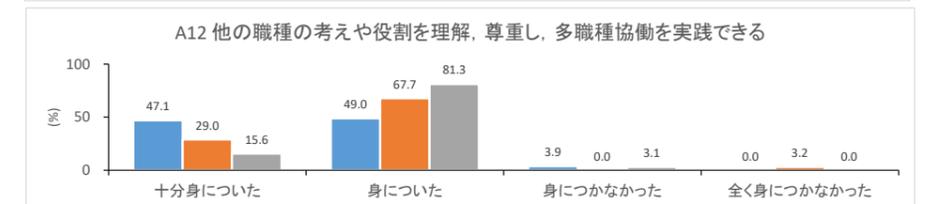
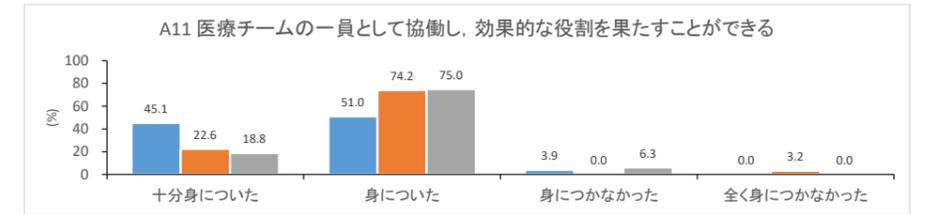
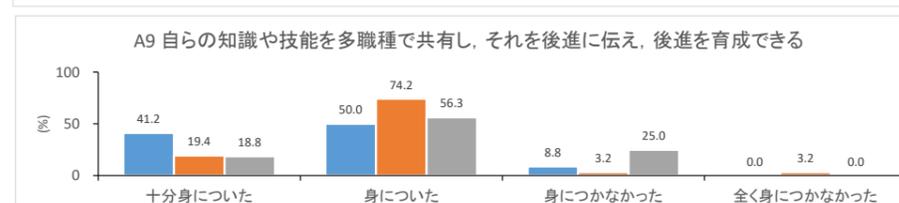
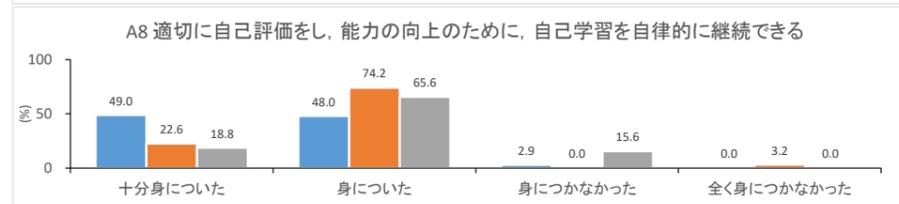
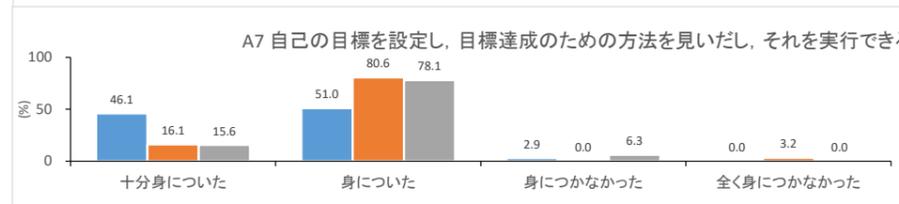
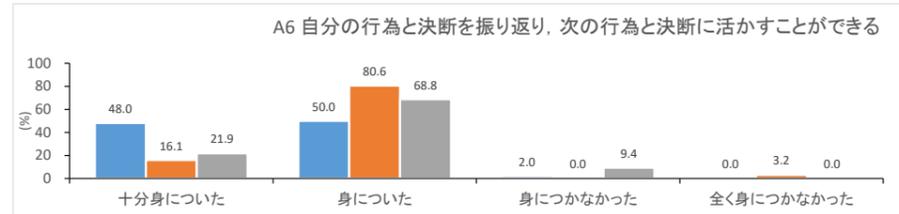
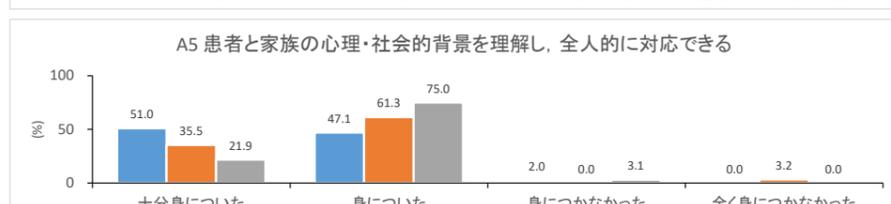
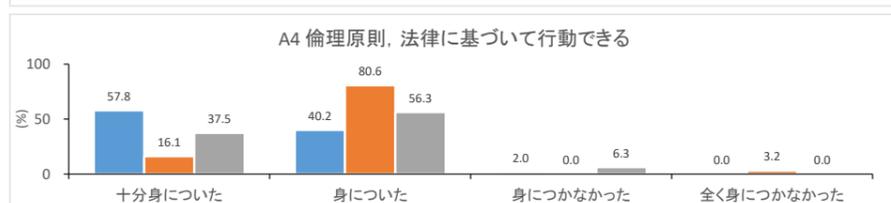
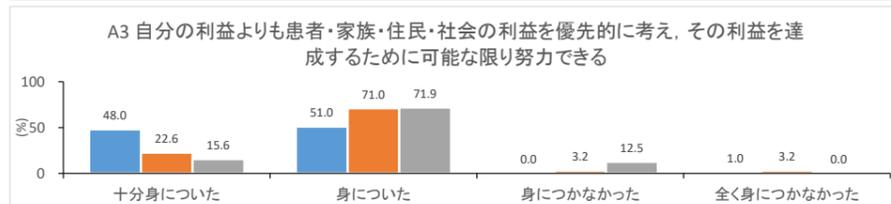
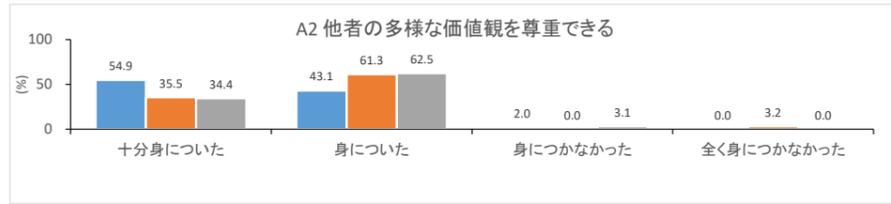
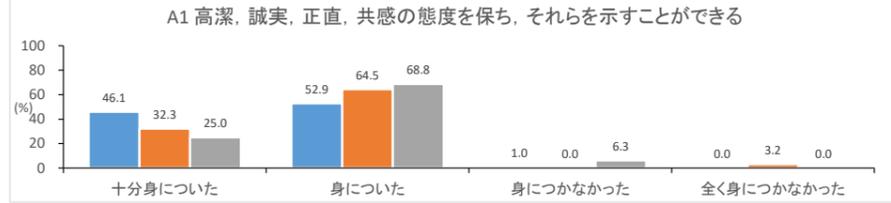
別紙1-1

2021年度 卒業時 n=102
 2022年度 研修医1年目 n=31
 2022年度 研修医2年目 n=32

満足度

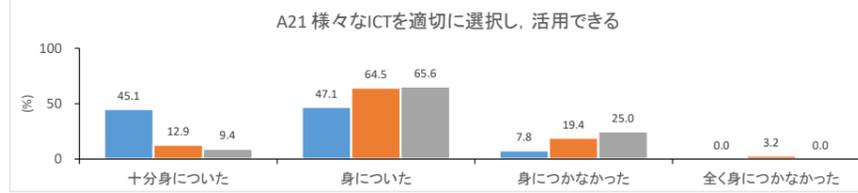
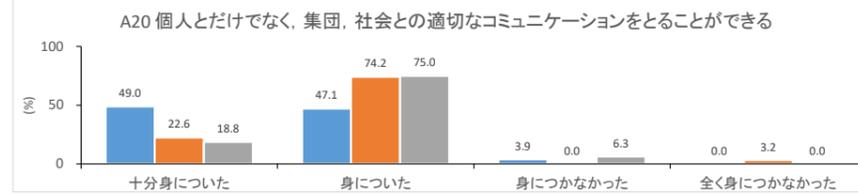
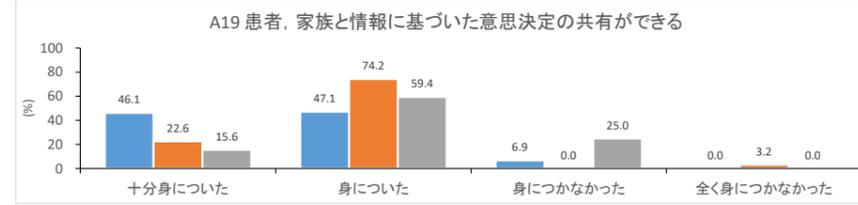
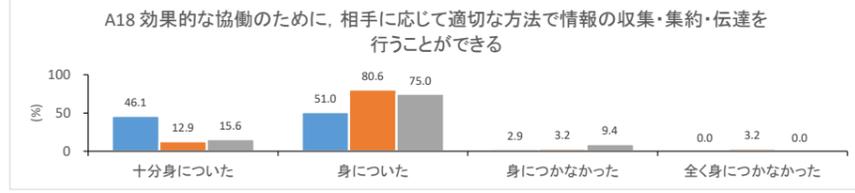
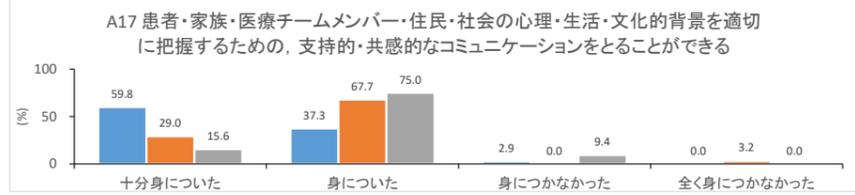
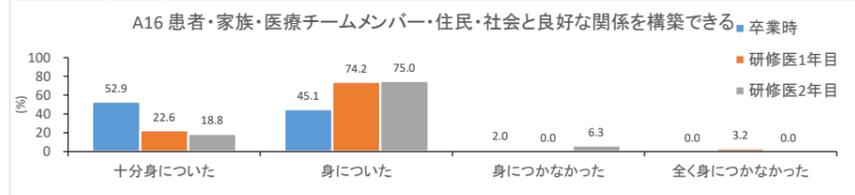


I. プロフェッショナリズム

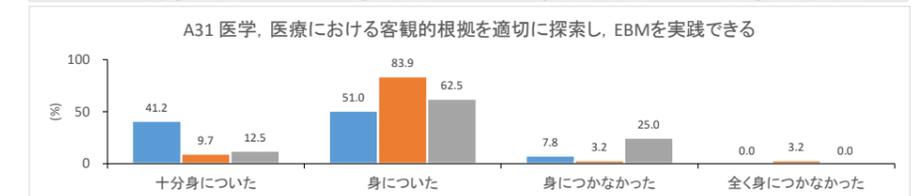
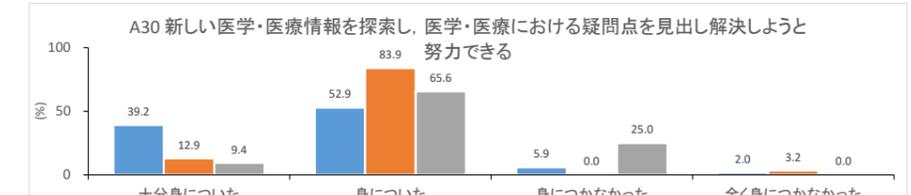
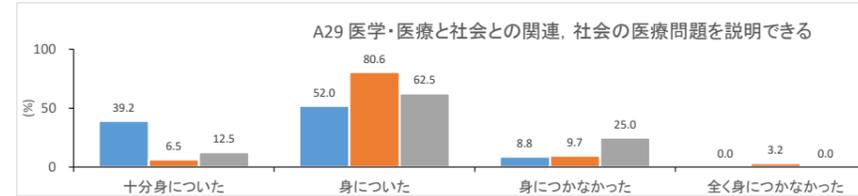
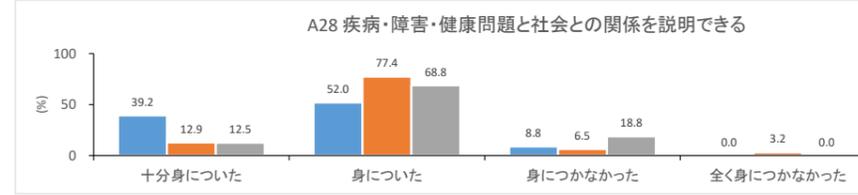
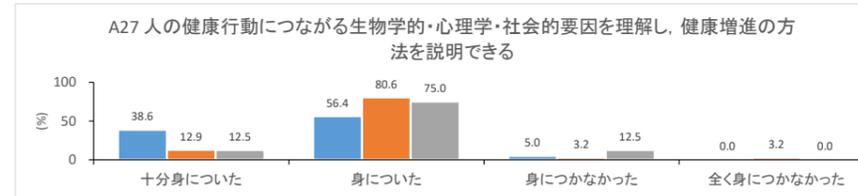
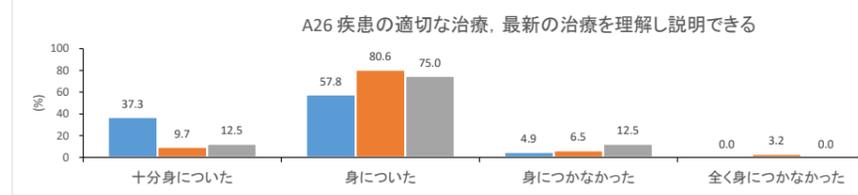
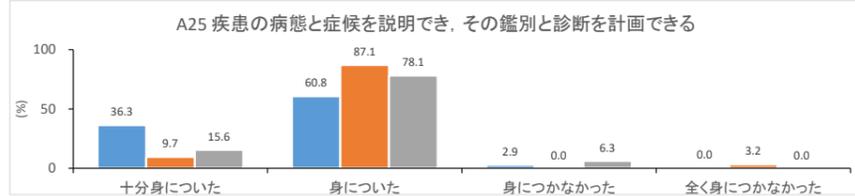
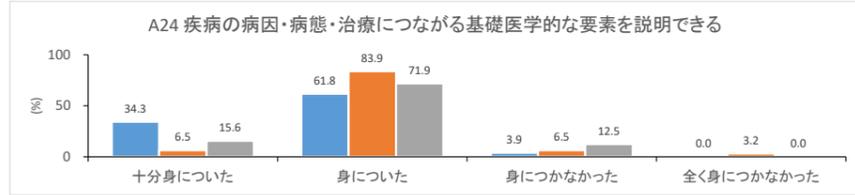
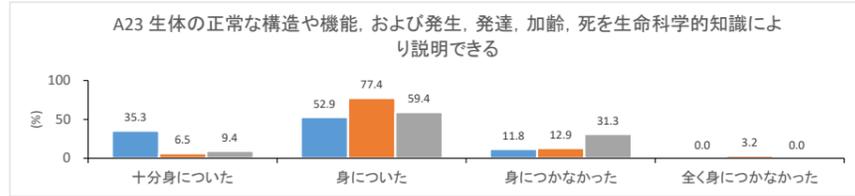
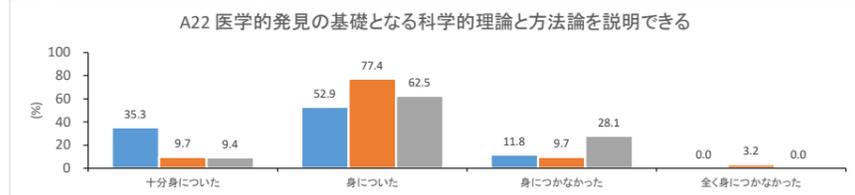


別紙1-2

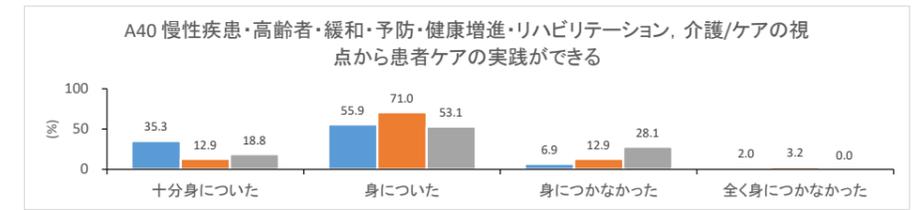
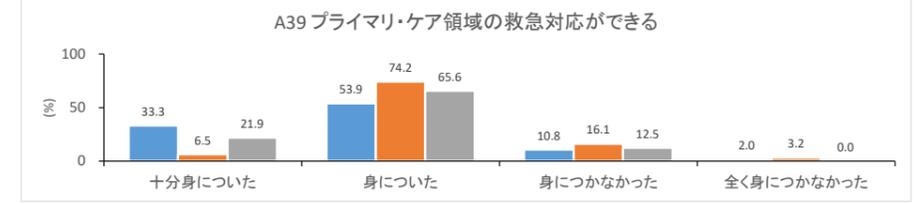
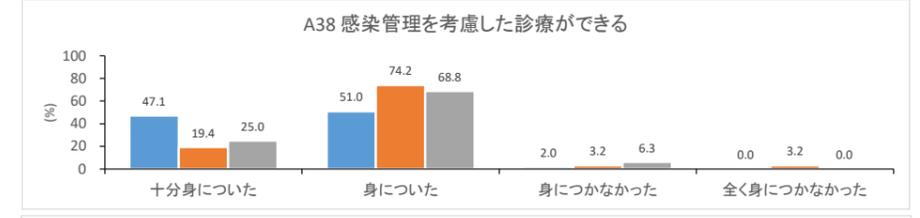
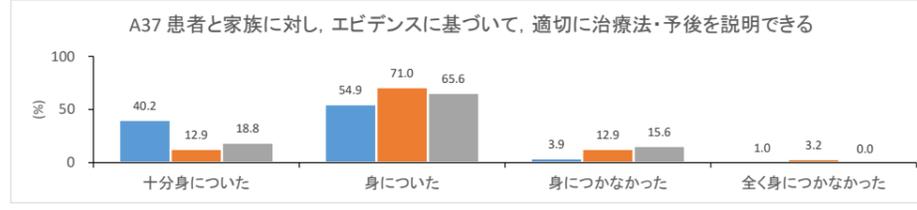
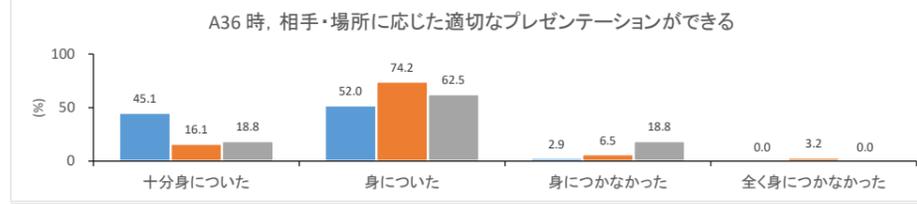
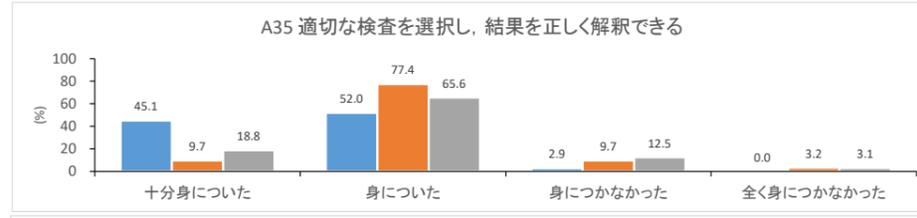
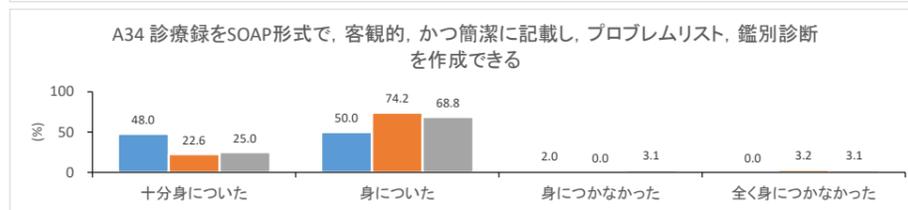
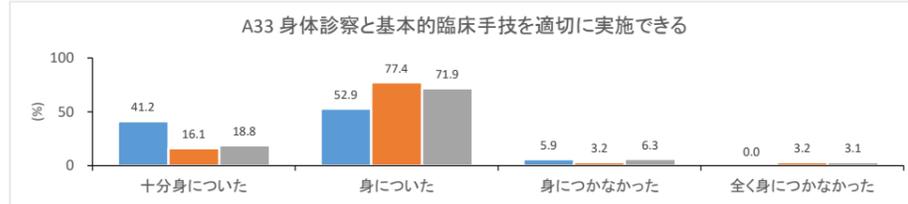
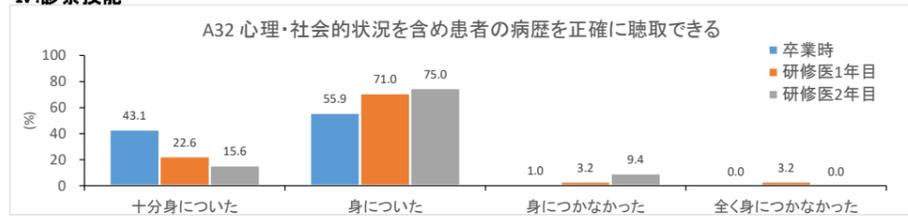
II. コミュニケーション



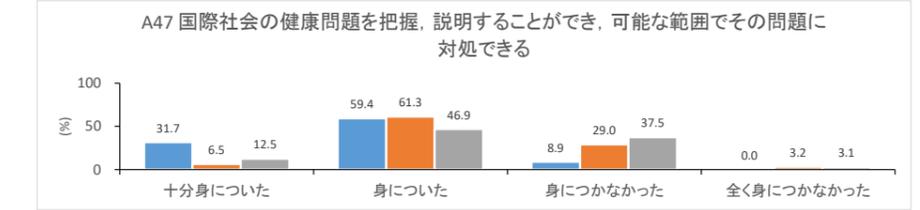
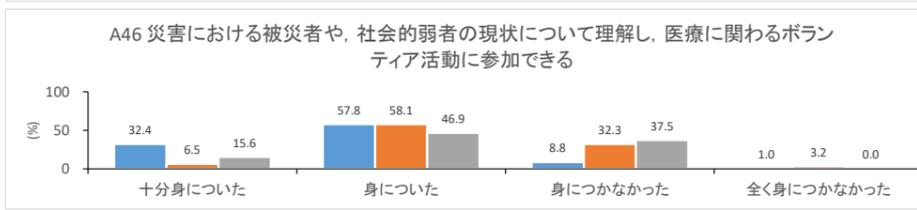
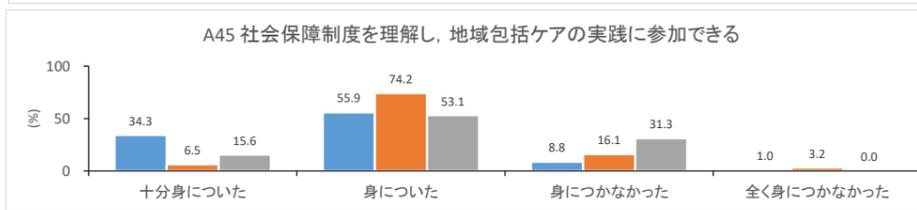
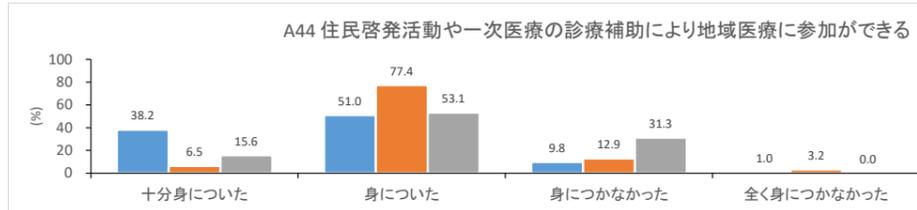
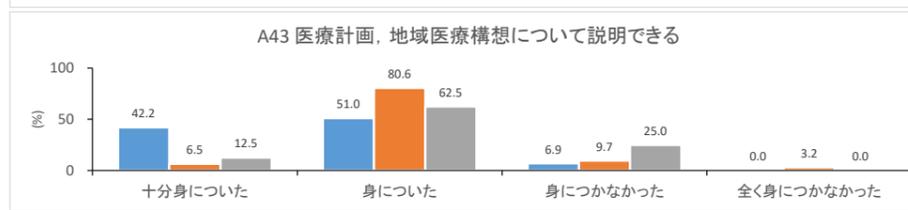
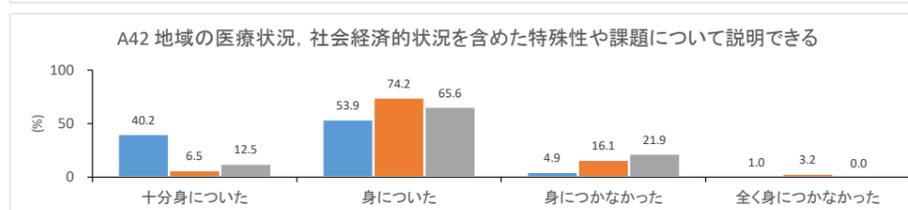
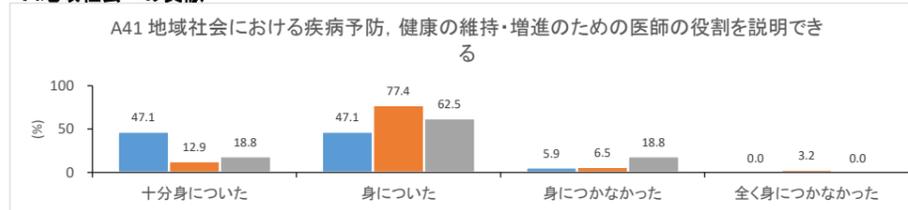
III. 医学の知識と科学的探究心



別紙1-3
IV.診察技能



V.地域社会への貢献



別紙2

